

横山吉男著

多摩の文学碑

— 百三十碑余の詳細解説 —

多摩の文学碑

横山吉男著



武蔵野郷土史刊行会

著者略歴

昭和3年東京に生まる。

法政大学文学部を卒業。昭和28年より現在に至るまで

明星学苑に勤務。

著書『日記教室』・『母と子の国語教室』

多摩の文学碑

昭和五十六年十二月二十日 発行

定価 1100円

著者

横山吉男

発行者

倉間勝義

発行所

武蔵野郷土史刊行会
東京都武蔵野市境五一七―一二
電話 〇四二二(五二)二四五五

印刷所

慶昌堂印刷株式会社

多摩地区
発売元

武蔵野郷土史刊行会

取引銀行

三井銀行三鷹支店(普) 〇四六五
三和銀行武蔵境支店(普) 〇四六五

郵便振替

東京 2―1 五七五五三

発売元

有峰書店新社
東京都新宿区南山伏町六番地
電話 〇三(二六七)一五二一

はじめに

荒廃した自然環境に住み育つ者の心は、美しくもなく豊かでもない。多摩の地は東京のベッドタウンとして人口は急増し、開発と都市化が急ピッチで推進された。そのため、農地の宅地化、自然破壊、河川の汚染、地下水の枯渇等々により武蔵野は変貌に変貌を重ねている。しかし、山野の破壊も河川の汚染も必ずしも企業の専制からだけではない。根底に潜むものは住民のエゴイズムであり、郷土愛・郷土意識の不毛に起因しているといつてよい。

やがて多摩の地を産土うぶすなとする世代が登場する。これらの人々が美しく豊かな心情を持つようにするために、これ以上の環境破壊を許してはならない。自分達が住み育つ多摩の地に、長い歴史と豊かな文化があることを知ることこそが環境破壊阻止の第一条件と私は考える。われわれは経済の高度成長によって豊かさを手にすることができたが、それとひきかえに美しい自然を失なった。多摩の地をこれ以上荒廃させてはならない。

はじめに
自分たちの住む地域にどのような文学遺跡があるのか、を「文学碑を訪ねる」という方法で知って

もらいたいために本書を執筆した。折を見、余暇を使い、本書を携えて実際に歩いてもらいたい。

こうした文学遺跡めぐりは新しい分野でもなく、ましてや私の創造でもない。近代文学のそれについては「文学散歩」の創始者として詩人野田宇太郎氏の業績をあげねばならないが、かなり古くから行なわれていたことを次の文章が示している。

名所知^{しり}

「わしは歌まくら修行して国々をめぐり、名所旧跡、どこでも問ふて見さっしゃい。しらぬ所はない」

「それはうらやましい。そんなら問ひませう。まづ嵯峨とやらは、どんな所でござる」

「嵯峨といふてはみやこ第一の風景、大井川とて石の流る川もあり、向ふは金谷、こちらは島田、^{なます}繪の名所でござる」

「八つ橋のかきつばたは」

「それは業平の昼めし喰れたところ、花の時分はいやはや見事な事さ」

〔明和九（一七七二）『鹿の子餅』〕

この文章は半可通を揶揄したものだ。嵯峨の大堰川と静岡県の大井川を混同したりしている。しかし大事なことは、江戸時代に「歌枕修行」という学習或は遊びが存在したということだ。

本書は、多摩中央信用金庫が発行している郷土研究雑誌『多摩のあゆみ』に「多摩の文学碑」と題

して連載したものが基になっている。文学碑をたずねた時、誰でも知りたいと思う、作者の略歴、その作品の背景、建碑事由等についても簡単に述べたつもりだ。漢文については訓点を、漢詩についてはその書き下し文を載せたが十分とは思っていない。

また、多摩の名勝については私個人の印象や所感を書くことを控え、可能な限り先人の文章で飾ることを心がけた。多摩の地を歩いた近代文学者の数は多く、その作品のほとんどを割愛せねばならなかったことを残念に思っている。

もくじ

一、府中市

大國魂神社（高浜虚子句碑、村野次郎歌碑）

一五

高安寺（宮崎素洲句碑、野村瓜州墓）

一九

安養寺（上林白草居句碑）

三

多磨墓地（岩谷莫哀、直木三十五、与謝野寛・晶子、吉田紘

二郎、池田亀鑑、倉田百三文学碑）

二四

二、国分寺市

国分寺跡（国分寺碑）

三

黒鐘公園（阿部太歌碑）

三

熊野神社（道興准后歌碑、芭蕉・坂本可尊句碑）

三

三、小金井市

市立青少年センター（下村湖人歌碑）

長昌寺（石丸梧平哲学碑）

四 五

四、小平市

海岸寺（小金井桜樹碑）

小平靈園（河井醉茗詩碑、富安風生句碑）

三 六

五、田無市

市立図書館（釈迢空歌碑）

三 六

六、東村山市

多摩湖畔（斎藤俳小星句碑）

五 六

七、武蔵野市

杵築神社（武蔵野八景碑）

六

桜橋（国木田独歩文学碑）

六

成蹊大学（志田素琴句碑）

七

三鷹駅北口前（国木田独歩碑）

七

八、三鷹市

井の頭公園（野口雨情詩碑）

七

大盛寺（飯田莫哀歌碑、武蔵野文化の碑）

七

禅林寺（森鷗外遺言碑）

八

龍源寺（近藤勇辞世碑）

八

九、調布市

深大寺（金原省吾・清水比庵歌碑、篠原温亭・皆古爽雨句碑）

八

光岳寺（蓼太句碑）

九

布多天神（調布の里碑）

九

十、狛江市

玉川の里（万葉歌碑）

五五

十一、稲城市

孝子長五郎墓（蜀山人歌碑）

六七

十二、多摩市

対鷗荘（小野小町歌碑）

一〇〇

聖蹟記念館（徳富蘇峰詩碑、明治天皇御製碑）

一〇三

十三、町田市

五十嵐家墓地（浜藻墓・句碑）

一〇五

成瀬街道東端（芭蕉句碑）

一〇九

八木重吉生家・詩碑

一〇九

十四、国立市

谷保天神（清原元輔歌碑、孝林道人詩碑、不老軒うたた・

原田重久句碑）

佐藤邸（蜀山人句碑）

二三 二六

十五、立川市

立川駅北口（若山牧水歌碑）

立川市民体育館（北川冬彦詩碑）

都北多摩北部建設事務所（貞明皇后御歌碑）

二三 二五 二七

十六、日野市

百草園（松蓮寺詩碑、芭蕉句碑、若山牧水歌碑）

高幡不動（芭蕉・山口誓子句碑）

大昌寺（玉川居祐翁墓）

二六 二七 二八

十七、福生市

石浜渡津跡（大沼枕山詩碑）

一四三

福生神明社（芭蕉句碑）

一四五

松原庵・森田邸（友昇塚、若山喜志子歌碑）

一四六

十八、羽村町

中里介山終焉の地

一五〇

宗禅寺（芭蕉・其角句碑）

一五三

十九、秋川市

西多摩霊園（「赤とんぼ」碑、山田耕作墓）

一五五

二十、五日市町

石舟閣（水原秋桜子句碑）

一五九

二十一、青 梅 市

真淨寺（芭蕉塚、時雨桜碑、淨月律師墓）

一六〇

住吉神社（根岸典則碑）

一六三

永山公園（高田浪吉歌碑）

一六六

梅岩寺（建部綾足碑）

一六九

常保寺（芭蕉・支元句碑）

一七二

金剛寺（横川好々句碑）

一七五

海禪寺（逍遙院内府公歌碑）

一七八

小沢酒造（北原白秋歌碑）

一八一

寒山寺（田口米舩碑、張繼詩碑）

一八四

玉堂美術館（清水比庵歌碑）

一八七

御岳山（武州御嶽山碑、『大菩薩峠』記念碑）

一九〇

二十二、奥多摩町

小河内ダム・奥多摩湖（「湖底の故郷」歌碑）

一九二

温泉神社（小河内温泉の碑、芭蕉・抱一句碑）

一六四

徳富蘇峰詩碑

二〇四

二十三、八王子市

大義寺（榎本星布墓）

二〇五

永福稲荷（芭蕉句碑）

二〇七

極楽寺（塩野適斎碑）

二〇九

名綱神社（水原秋桜子句碑）

二二一

新井邸（水原秋桜子句碑）

二二三

宗徳寺（植田孟縉碑）

二二五

滝山城址（沢井尺水句碑）

二二八

谷野西公園（北村透谷碑）

二三九

上川町東部会館前（三日幻境碑）

二三三

多摩第一老人ホーム（樋口配天詩碑）

二三七

中央霊園（武者小路実篤碑）

二三九

上川霊園（菊田一夫墓）

二四一

宝生寺（夕やけ小やけの鐘碑）

二三

観栖寺（中村雨紅歌碑）

二三四

興慶寺（中村雨紅詩碑）

二三四

宮尾神社（中村雨紅童謡詩碑・雨紅墓）

二三五

辺名の桜（芭蕉句碑）

二四〇

医王寺

二四三

陣馬山（太白堂句碑）

二四四

長心寺（芭蕉句碑、西行塚）

二四五

多摩養育園（万葉歌碑、巽聖歌詩碑、コックス慰靈碑）

二四六

永泉寺（芭蕉句碑）

二四八

大法寺（斎藤茂吉・鈴木一念歌碑）

二五二

雲龍寺（「通りゃんせ」碑）

二五八

真覚寺（万葉歌碑）

二六一

高尾山（中里介山妙音谷草庵跡・渡辺水巴・若林牧春・

二六三

安田蚊杖・鈴木龍二・北原白秋・小田島十黄・

水原秋桜子・南南浪・中西悟堂ら文学碑）

小仏関所跡（先賢彰徳碑）

二五

浅川老人ホーム（芭蕉句碑）

二七

小仏峠（三条実美歌碑）

二八

